

わが家のアイドル



おおしる こうと
大城 孝仁
平成25年2月16日生まれ
母：友紀子
父：孝夫(宮平)
元気に育ってね

わが家のアイドルコーナーでは、満3歳までのちびっ子を募集しています。掲載写真はお返します。総務課広報担当までご連絡ください。

☎889-4415

6.23慰霊の日企画 戦争時に行われた「飯上げ」を親子で体験

第二次世界大戦中、かつて喜屋武にあった炊事場から黄金森の陸軍病院壕までの足場の悪い山道を、艦砲弾や爆弾が降る中、ひめゆり学徒隊が命懸けて食糧を運んだ「飯上げ」。その追体験をとおして平和の尊さを感じてもらおうと、6月23日の慰霊の日、親子「飯上げ」体験が文化センター主催で開かれました。

町内外から参加した26人の親子は、文化センターから陸軍病院壕近くまでの約200mの山道を、当時を再現し、食糧を詰めた一斗樽(だる)を天秤棒で担いで運びました。比嘉聡太君(南小6年)は「樽は重いし道は険しいし、とても疲れた。ひめゆり学徒隊の皆さんはとても大変だったと思います」と感想を話しました。

体験終了後、飯上げしたご飯を文化センターで試食しました。当時の食事は、ピンポン玉ぐらいの大きさに握られたこのご飯が1日に1個だけだったそうです。平良優弥君(南小1年)は「1日にたった1個だけなんて、当時の人たちはとてもお腹が空いていたと思う。戦争はもう起きてほしくないです」と話しました。



汗を流しながら険しい山道を「飯上げ」する参加者ら

第21回少年の主張南風原町大会 中学生が日頃の考えを発表

7月11日、中央公民館において「第21回少年の主張南風原町大会」が行われ、南星中3年の柳井美桜さんが優秀賞に輝きました。本大会は、町内の中学生が日常生活を通して日頃考えていることを広く社会に訴えることにより、同世代の少年が社会の一員としての自覚に目覚めることを期待すると同時に、青少年の健全育成に対する一般の理解と協力を深めることを目的に行われます。

今回は南風原中4名、南星中4名の計8名が参加し、自らの体験に基づき家族の絆や大切さ、学校生活で感じていること、部活動のこと、いじめなどについて緊張しながらも力強く主張を行いました。

優秀賞を受賞した柳井さんは、9月10日に中央公民館で行われる「第28回沖縄県少年の主張島尻地区大会」に町代表として派遣されます。



優秀賞を受賞した南星中の柳井美桜さん

宮平郵便局 開局20周年を祝う

与那覇交差点近くの宮平郵便局(上里弘定局長)がこのほど開局20周年を迎え、7月15日、感謝祭を開催しました。同局は平成5年7月15日に県内180番目の郵便局として開局。上里局長は「この宮平郵便局が20年の歴史を刻んできたかと思うと感慨深く、この節目のタイミングで局長に就いていることは光栄です。これからも地元の方々の皆様の役に立てるよう、地域貢献を一番の使命として頑張ってまいります」とあいさつしました。この日ははえるんが一日郵便局長に就任したほか、子ども向けに流しそうめんやダンボールシーサー作りなども催され、感謝祭は賑わいました。



開局20周年を祝う宮平郵便局職員や城間町長、関係者ら

はえばる NEWS

南風原高郷土芸能部が 全国大会に出場します!

昨年11月に開催された「第36回沖縄県高等学校総合文化祭」で南風原高校郷土芸能部が優秀賞に輝き、「第37回全国高等学校総合文化祭」への切符を手にしました。3年ぶり9回目の快挙です。全国大会への出場を記念し、壮行公演が7月5日、中央公民館で開催されました。全国大会で披露する演目「御結婚(うにびち)ぬ御祝(うゆえ)」のほか、かぎやで風や民謡などを披露し、約500人の観客を魅了しました。全国大会は7月31日～8月2日の日程で長崎県で行われます。



全国大会出場演目「御結婚ぬ御祝」

区民の絆をひとつに 山川区民運動会

山川区で6月16日、区民運動会が山川体育センターで開催されました。100メートル走や大玉ころがしといったおなじみの競技のほか、大きさの違うシブイをバトンにしてハンディをつけて行う各種団体対抗リレー、子どもたちによる島ぞうりけ飛ばし競争などといったユニークなプログラムで、区民は楽しく参加していました。神里一夫区長は「昔は各自治会で催されていた運動会だが、今では津嘉山と山川だけになってしまった。我々山川区は、区民が一堂に会するこういった行事を今後も大切に、絆を深めていきたい」と話しました。



なわとび、スプーンでピンポン運び、ボールけり、アイマスクでリレーする「千変万化」

今年もひまわり満開です☆

宮平土地改良区内にある新垣真助さん(宮平)の畑約500坪に、夏の花ひまわり約2万5000本が今年も見事に咲き誇りました。7月10日、5月に種まきを行った南風原小3年生の児童たちを招き、開花式を行いました。自分たちの背丈を優に超え、約2mまで成長したひまわりを前に、児童たちは目を輝かせていました。

このひまわり栽培は、後のかぼちゃ栽培のための土づくり(緑肥)として行われており、町が費用の50%の補助を平成22年度から行っています。



満開のひまわり畑を見渡し、笑顔を見せる児童ら

南風原の伝統工芸「琉球絨」を学びます

琉球かすり会館で7月1日、平成25年度琉球絨後継者育成事業の開講式が行われました。この事業は昭和55年から続いており、今年は町内外から8名が参加します。約8か月かけて琉球絨のデザインや染色、製織などの技術を学んでいきます。

開講式で琉球絨事業協同組合の野原八重子代表理事は「来年2月の修了のときには世に出しても恥ずかしくないものを作れるよう、技術を学ぶことに尽力してください」と激励しました。町内から参加する比嘉みどりさん(津嘉山出身)は「小さい頃からかすりロードで機織りの音を聞いて育ってきました。南風原の誇るべきこの琉球絨に携われると思うと幸せです。しっかり勉強していきます」と抱負を語りました。



今年度の受講生メンバー